

平成25年度 文部科学省委託
確かな学力の育成に係る実践的調査研究

実践事例集

推進地区及び推進校（協力校）

にかほ市



金浦小学校
(協力校: 金浦中学校)

主な取組

目指す授業のイメージ図を活用した
単元及び一単位時間の計画の作成

大仙市



西仙北中学校
(協力校: 西仙北小学校)

主な取組

学び合いによる確かな学力の育成
～小・中連携と
授業デザインの工夫～

羽後町



三輪小学校
(協力校: 三輪中学校)

主な取組

共同研究体制の確立と
小・中連携の推進



平成26年3月 秋田県教育庁義務教育課

本県重点課題

- ① 「活用」に関わる学力の定着
- ② 校種・学年・教科を超えた共同研究体制による小・中連携の充実

1 平成25年度の重点課題

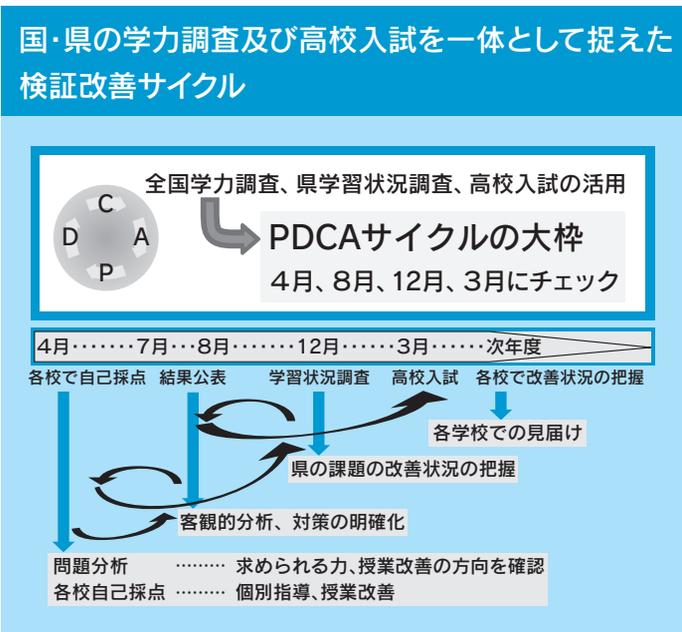
(1) 課題設定の理由

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果は、小学校は全ての教科で全国の平均正答率を5%以上、中学校は4%以上上回った。しかし、国語では「条件に合わせて文章を引用しながら自分の考えを書くこと」、算数・数学では「必要な情報を用いて判断し、その理由を記述すること」、理科では「観察・実験の結果を基に考察すること」等、思考力や表現力等に関する記述式問題に対して正答率が低い傾向が見られ、活用に関する力を向上させることが課題であった。

本県では、これらの課題の改善を図り、学力向上につなげるために、全国学力・学習状況調査及び県独自の学習状況調査、高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立に向けた取組を行っている。具体的には、県学習状況調査において実施する全ての教科で、全国学力・学習状況調査のB問題との関連を図った問題を出題するなどして、課題の改善状況を分析してきた。平成24年度の県学習状況調査においても、思考力や表現力等に関する問題を増やすなどして改善状況について分析したところ、中学校数学、理科に加え、中学校国語や社会においても全国学力・学習状況調査と同様の課題が見られた。このことから、本県においては、活用に関する力の一層の向上、特に思考力・判断力・表現力等の育成を重点課題と捉えた。

また、これらの調査の結果や指導主事等による学校訪問から、中学校における授業改善の必要性が浮き彫りになってきた。本県では、小学校から中学校にかけて学力が順調に向上しない地区が見られる。こうした地区では、小学校で育てられてきた活発な意見交換や、自分の考えや判断した理由などを表現させるノート指導などの「学びのスタイル」が、中学校で十分生かされていない傾向がある。一方で、小学校の教員のより質の高い授業づくりのためには、各教科において、小学校の学習内容と中学校の学習内容の系統性を知ることや、教科の専門性を生かした教科指導など中学校の教育力を活用することも重要である。これらを踏まえ、小・中連携を一層充実させて相互に授業改善を図り、思考力・表現力等の育成につなげる必要がある。

秋田県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査のデータを基に、「安定した成果を示している学校」「課題の改善が顕著である学校」の特徴を分析し、学力を支える関連因子をまとめた「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～」を県内の市町村教育委員会及び小・中学校に提唱している。県としては、この5つのエッセンスについて、市町村教育委員会及び小・中学校の取組状況を把握し、その成果について継続的に発信していくことが必要である。



これらを踏まえ、本事業の調査研究に当たっては、活用に関する力の育成及び校種・学年・教科を超えた共同研究体制による小・中連携の充実を、県の学力向上の重点課題に設定するとともに、推進地区及び推進校においては、5つのエッセンスから推進地区及び推進校が抱える課題の解決につながる視点を選択し、具体的な取組を通して課題の改善状況とその成果について検証することとした。

一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

- I：全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査等の結果を踏まえた、学校体制でのPDCAサイクルの確立
- II：児童生徒が積極的に授業に参加できる学校空間づくりの推進
- III：児童生徒の思考を促し深める授業づくりの推進
- IV：自発的学習を生み出すきめ細かな指導の充実
- V：豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の連携の充実

(2) 推進地域（秋田県）の取組

①推進校の授業研究会や研修会等への県教育委員会の指導主事等の派遣

- 推進地区及び推進校に、本事業を含めた学力向上に係る事業の趣旨や県教育委員会としての事業の進め方等の周知を図るとともに、県教育委員会の指導主事等による学校訪問により、重点課題に係る取組について指導・助言を行う。
- 県のホームページで、次の教育情報を配信する。
 - ・全国学力・学習状況調査で課題の見られた問題について改善点を示した学習シート
 - ・指導改善の検証改善サイクルの確立に向けた実践事例 など

②推進地区や推進校における*教育専門監の活用

- 本県では、より多くの学校の教育力を高めるため、教育専門監を複数の学校で活用している。県内の教育専門監の実践による授業改善に役立つ指導事例等を県のホームページやDVDなどで情報提供する。
- 推進校の要請に応じて教育専門監を派遣し、教材研究や授業づくりなどを支援する。

③検証改善委員会による推進校の研究の検証及び情報提供

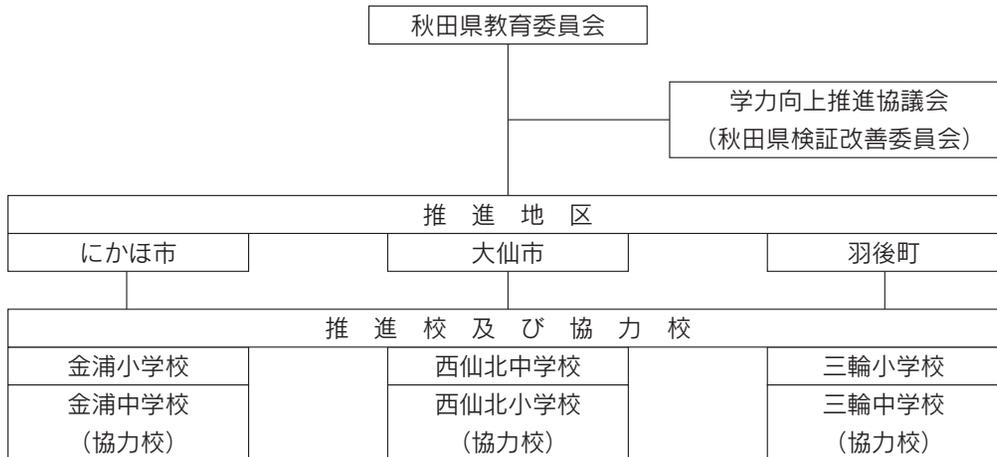
- 学力向上推進協議会（秋田県検証改善委員会）を開催し、全国学力・学習状況調査結果を分析した資料を推進地区及び推進校・協力校に提供する。また、推進地区及び推進校の研究について検証するとともに必要な指導・助言を行い、事業の一層の充実を図る。

④推進校等の成果の普及

- 秋田県教育研究発表会や各教育事務所管内の学力向上に関する事業等において、推進地区及び推進校における学力向上に向けた特色ある取組を発表する機会を設定し、成果の普及を図る。
- 推進地区及び推進校が作成した研究報告書を県内の小・中学校に配付するとともに、県のホームページで配信し、研究成果を発信する。

【注】*教育専門監：教科指導に卓越した力を有する教諭として秋田県で認定している。

(3) 事業の実施体制



2 成果と課題

(1) 成果

- ① 児童生徒が共に思考を深める場を意図的に設定して重点的に取り組んだ推進校では、思考力や表現力等を育む授業改善が進み、児童生徒の学習意欲と「活用」に関わる力の向上が見られた。
- ② 学力向上推進協議会（秋田県検証改善委員会）から、全国学力・学習状況調査結果を分析した資料を推進地区及び推進校に提供したことにより、推進地区及び推進校の研究推進や成果の分析に活用され、より精度の高い検証につながった。
- ③ 各推進地区及び推進校が、5つのエッセンスと関連した研究主題を設定して調査研究を行い、授業改善や共同研究体制の充実等、一定の成果を上げた。推進地区及び推進校が選択したエッセンスについては実証的な検証を行うことができた。
- ④ 各推進地区の教育委員会が、推進地区の推進校と協力校による小・中連携を支援したことにより、小・中合同の研究推進チームによる研究授業の実施や、9年間を見通した学習習慣や生活習慣の系統表の作成など、多様な連携の在り方について研究を深めることができた。
- ⑤ 全国学力・学習状況調査と県学習状況調査を、推進地区や推進校が検証改善サイクルの中に位置付け、それらの結果を比較・分析することにより、児童生徒の学習意欲や学習習慣、学力等の育成の取組について、その成果と課題を明確に把握することができた。
- ⑥ 研究教科の教育専門監がいない推進地区の推進校に対し、推進地区外から当該教科の教育専門監を派遣したり、推進地区が独自に教育専門監の授業視察を行ったりしたことにより、教育専門監を活用した研修や授業改善が一層進んだ。
- ⑦ 公開研究会や推進地区単位等で推進校の成果発表会を実施したり、秋田県教育研究発表会等において発表の機会を設けたりすることにより、県内外への成果の普及に努めた。さらに県のホームページで配信し、研究成果を発信した。

(2) 課題

- ① 各推進地区及び推進校の実態に応じて5つのエッセンスから選択して関連した研究主題を設定する手法を取ったが、本調査で未選択のエッセンスの検証については、成果を上げている他校の実践例を取り上げるなどの手段を講じて、今後も5つのエッセンスを総合的に検証していく必要がある。
- ② 平成25年度の全国学力・学習状況調査や県学習状況調査においても「活用」に関する問題について課題が見られた。本年度の推進校の実践や「平成24年度確かな学力の育成に係る実践的調査研究 実践事例集」、秋田県検証改善委員会による「学校改善支援プラン（H19～H24）」などから、成果を上げた実践事例等を取り上げ、学校訪問指導や学力向上に係る事業等を通じて紹介するなどして支援していきたい。
- ③ 小・中連携の在り方については、各地区の実態に応じて更に検討していく必要がある。小・中の授業交流にとどまらず、共同研究を進めるための組織の在り方や共同研究テーマの設定など、推進地区の先進的な実践等を広く紹介し、各校の改善につなげていく必要がある。

研究主題

確かな学力を身に付けた児童生徒の育成
～見通し、振り返り型の授業づくりを通して～

にかほ市教育委員会 教育長 齋藤 光正

I 推進地区の概要

推進校名	金浦小学校
------	-------

1 研究の重点

- (1) 児童の思考を促し、深める授業づくりの推進
- (2) 校種、学年、教科を超えた共同研究体制による小・中連携の充実
- (3) 全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査等の結果を踏まえた、学校体制でのP D C Aサイクルの確立
- (4) 地域、家庭との連携・協力

2 研究の概要

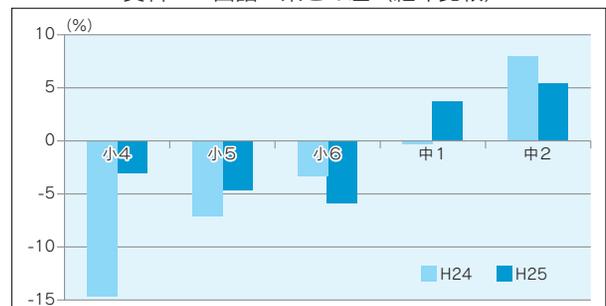
- (1) 推進地区（金浦中学校区）における基礎的・基本的な学習内容の確実な定着
 - ① 本時（本単元）で身に付けたい力を明確にした授業づくりの推進
 - ・改善の視点を明確にした授業実践
 - ・児童生徒の変容を見取る本時（本単元）の具体的な評価
 - ② 児童生徒の実態に応じた少人数指導の推進
 - ・算数における少人数指導の取組
3年～担任，教務 4年～担任，教頭，市教育指導員 5年～担任，教務，市教育指導員 6年（2学級）～担任，教育専門監
 - ・中1（36人）における少人数学習（国語，社会，数学，理科，英語）
- (2) 小・中連携による基本的な学習習慣の確立と自ら学ぶ子どもの育成
 - ① 小・中学校教員による共通実践
 - ・「浜っ子の学び」（金浦小学校），「学習の心得九ヶ条」（金浦中学校）を活用した自立的な学習習慣の継続的指導
 - ・「見通し」と「振り返り」を大切にした問題解決的な学習の展開
 - ② 推進地区運営委員会を核とした小・中連携の取組
 - ・小・中学校教員，教育委員会が参加する授業研究会，各種訪問及び授業を見合う会の設定
 - ・児童生徒の情報交換及び指導方法についての協議

II 学力調査等に見られる成果

1 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着

- (1) 県学習状況調査 国語，算数・数学の結果
 - ① 市平均通過率との比較
 - ・小5，6年国語及び小4，5年算数で市の平均を上回った。（昨年度は，全ての教科で市の平均を下回っていた。）
 - ② 県平均通過率との経年比較（資料1）
 - ・県平均との差が大きく縮まった。例えば昨年度の小6国語の県平均との差が-3.3だったのに対し，今年度の中1の県平均との差は，+3.2と，昨年度と比較して6.5ポイント上昇した。

資料1 国語 県との差（経年比較）



(2) 県学習状況調査 質問紙の結果

- ① 「目標」「振り返り」より（資料2）
 - ・「目標」「振り返り」に関して肯定的な回答をしている児童生徒の割合が，ほぼ全ての学年において県平均を上回っている。
- ② 「学校の勉強がよく分かる」より（資料3）
 - ・小・中連携によるきめ細かな取組により，勉強が分かると実感している児童生徒の割合が増加している。

資料2 「目標」「振り返り」県との比較

学年	はじめに目標 (%)		最後に振り返り (%)	
	地区(県比)	県	地区(県比)	県
小4	97.5(+6.5)	91.0	94.8(+ 6.2)	88.6
小5	93.4(+3.2)	90.2	90.0(+ 3.2)	86.8
小6	95.4(+2.0)	93.4	88.3(- 1.4)	89.7
中1	96.9(+7.4)	89.5	100.0(+12.9)	87.1
中2	95.7(+6.8)	88.9	95.6(+12.9)	82.7

資料3 「学校の勉強がよく分かる」経年比較 (%)

H24小4	→	H25小5	75.6	→	100.0
H24小5	→	H25小6	89.2	→	97.3
H24小6	→	H25中1	61.7	→	84.4
H24中1	→	H25中2	82.6	→	89.1

研究主題

学力向上に向けた小・中連携教育の継続的な取組

大仙市教育委員会 教育長 三浦 憲一

I 推進地区の概要

推進校名	西仙北中学校
------	--------

1 研究の重点

- (1) 校種、学年、教科を超えた共同研究体制による小・中連携の充実
- (2) 児童生徒の思考を促し深める授業づくりの推進
- (3) 全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査等の結果を踏まえた、学校体制でのPDCAサイクルの確立

2 研究の概要

(1) 小・中連携事業の継続

西仙北小・中学校は、昨年度「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」指定校として研究に取り組み成果をあげている。今年度は、西仙北中学校が単独で本研究の指定を受けたが、同地区の西仙北小学校についても市教育委員会が委嘱し小・中連携を柱として研究を進めた。



公開研究会の様子（西仙北小）

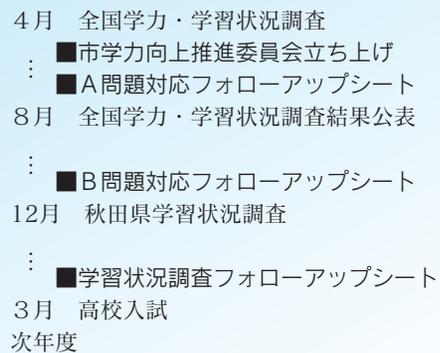
(2) 公開研究会の実施

昨年度両校が算数・数学の授業づくりとして取り組んだ「にしせんスタンダード」を、更に国語科及び図画工作・美術科にも広げ、その成果の発信と評価を得る機会として公開研究会を実施した。

(3) 市教育委員会における学力向上対策等

本市では、学習の定着状況の把握・分析及び学力向上施策等を検討するために5教科の教職員による学力向上推進委員会を設置している。全国学力・学習状況調査と県の学習状況調査を検証改善サイクルに位置付け、調査結果の分析から捉えた課題の改善の方策及びフォローアップシートを作成し、各小・中学校に提供することで、授業改善につながる取組を進めている。

【学力向上推進委員会の取組】

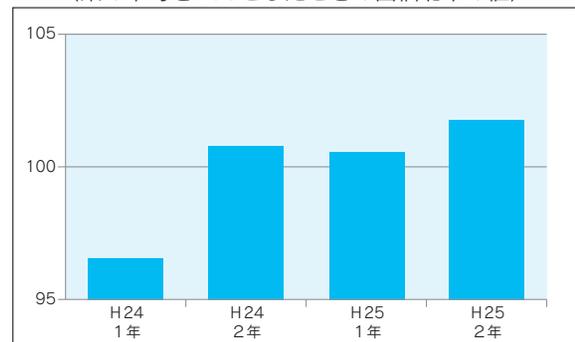


II 学力調査等に見られる成果

1 県学習状況調査における成果

昨年度西仙北中学校は、県学習状況調査において、1年生が県の平均通過率を大きく下回ったが、今年度は、1・2年生ともに県の平均を上回ることができた。経年比較すると今年度の2年生について、非常に高い伸びを示していることが分かる。

県学習状況調査5教科平均の結果
 (県の平均を100としたときの西仙北中の値)



2 公開研究会における成果

県内外から参加した160名の先生方からは「生徒同士、先生同士、先生と生徒の温かいつながりが随所に見られ、児童生徒が伸びやかに生き生きと活動している」や「小学校の学習の成果が、中学校でも生かされていることも分かり、小・中連携において何に取り組むべきなのかを示していただいた」などの肯定的な評価をいただいた。

研究主題

小・中連携教育の推進による学力向上, 学習習慣の形成

～羽後町教育振興協議会との連携を図りながら～

羽後町教育委員会 教育長 高橋 道子

I 推進地区の概要

推進校名	三輪小学校
------	-------

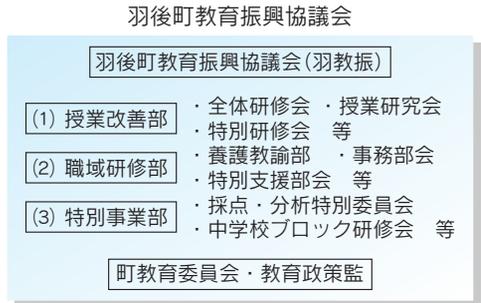
1 研究の重点

- (1) 小・中連携による学習習慣の確立及び基礎学力の定着
- (2) 分かる授業・魅力ある授業による学力の向上と教師の力量の向上
- (3) 学校・地域との連携の充実により開かれた学校づくり

2 研究の概要

(1) 実施体制

町内の小・中学校に勤務する教職員で羽後町教育振興協議会（羽教振）を組織している。教育委員会では羽教振と連携を図りながら特別委員会を設置し、全国学力・学習状況調査の採点や結果の分析、改善の手立てを示すとともに、各中学校ブロックごとに学習習慣や生活習慣等の定着を図るため、情報交換や具体的な実践事項を確認し、小・中連携教育を推進してきた。



(2) 小・中連携教育の推進

- ① 羽教振全体研修会での教育講演会の開催。秋田大学教育文化学部 阿部昇教授による講話。「小・中連携教育による授業改善及び共同研究体制～言語活動の充実～」
- ② 羽教振夏季研修会「三輪中ブロック研修会」の開催。教育政策監による講話と支援。「小・中連携教育の充実～育てたい力・指導観の共有, 家庭学習の手引き～」
- ③ 先進校視察。小・中連携による学力向上について先進的な取組をしている「潟上市立天王小学校, 天王中学校」で教育専門監の授業を参観。小・中連携の取組について説明を受ける。

(3) 成果等の普及

大学教授及び教育専門監から継続的に指導を受けてきた国語科の授業研究会を開催し、町内の小・中学校教員に授業を公開した。

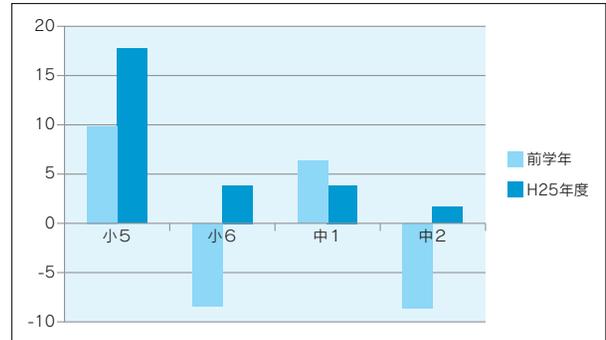
II 学力調査等に見られる成果

県学習状況調査の結果を県平均と比較したところ、重点教科の国語や算数・数学が好きな割合（グラフ1）や通過率が、前学年より向上していることが分かる。算数は県平均通過率と比較して前学年（小4）では+3.2であったが、H25年度（小5）では+6.7と向上している。（グラフ2）

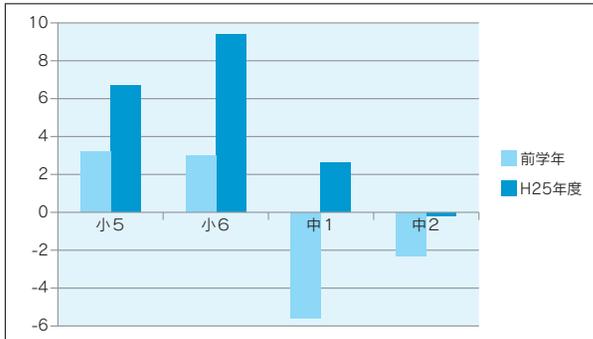
また、家庭学習の平均時間においても、今年度は前年度より多くなっている。（グラフ3）

9年間を見通した各種段階表の作成など、小・中連携教育の推進により、学年間及び校種間の円滑な接続が図られ学力向上に結び付いている。

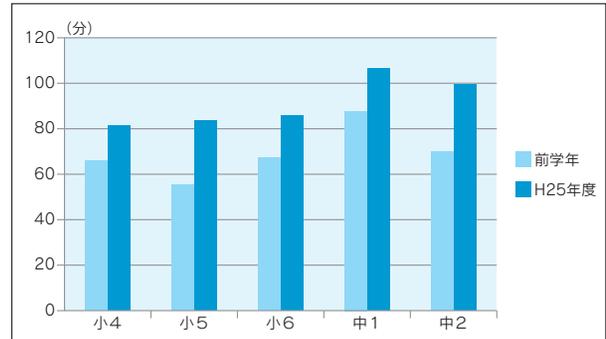
グラフ1 県平均との差の推移（国語が好き）



グラフ2 県平均との差の推移（算数・数学）



グラフ3 学校がある日の家庭学習の時間



研究主題

主体的に学び、ともに高まり合う子どもの育成

～学習意欲が高まり、確かな学力を身に付ける授業づくりを通して～

にかほ市立金浦小学校 校長 板垣 直俊

I 研究の重点

- (1) 児童生徒の思考を促し、深める授業づくりの推進に関すること
- (2) 校種、学年、教科を超えた共同研究体制による小・中連携の充実に関すること
- (3) 全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査等の結果を踏まえた、学校体制でのPDC Aサイクルの確立に関すること
- (4) 地域・家庭との連携・協力に関すること

II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

本校では、昨年度の県学習状況調査の結果、4年生～6年生の全ての調査教科において、平均通過率が県平均を下回っていた。

また、質問紙の集計結果や学校独自の児童アンケートから、次のような課題が明らかになった。

- ① 授業中の学習訓練が徹底していない。
- ② 児童が見通しをもてるような課題提示がなされていない。
- ③ 「学び合い」に時間をとられてしまい、まとめと振り返りが十分にできていない。

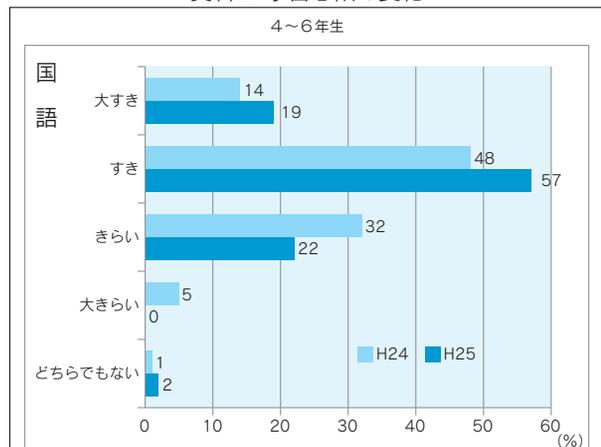
2 成果

- ・ 県学習状況調査における5・6年生の平均通過率について昨年度と今年度を比較すると、今年度研究教科としている国語、算数に関して、改善がみられた。(資料1)
- ・ 児童の学習意欲に関しても、昨年度と今年度を比較すると向上がみられた。(資料2)
- ・ 保護者アンケートでは、教師の指導力についての評価が向上してきている。(資料3)

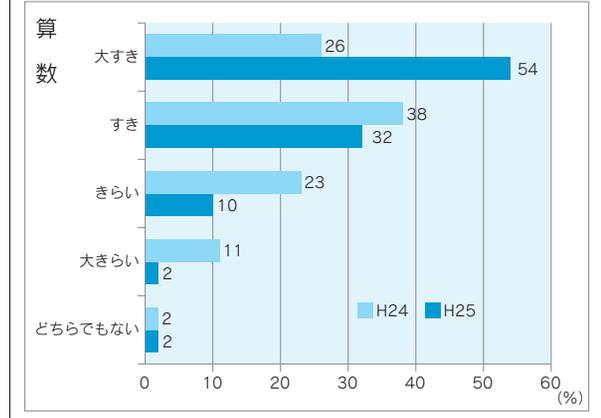
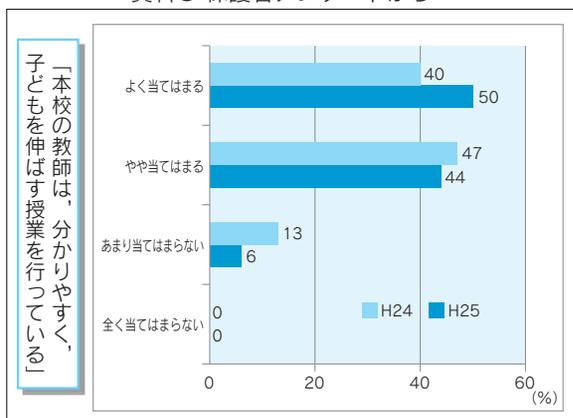
資料1 県平均通過率との差



資料2 学習意欲の変化



資料3 保護者アンケートから



Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 児童の思考を促し、深める授業づくりの推進（算数科の取組例）

(1) 目指す授業のイメージ（資料4）の作成とイメージに沿った単元や一単位時間の計画

・目指す授業のイメージに沿って、児童の思考の流れやつまづきの予測、具体的な支援策などを児童の実態に基づいて考え、単元や1単位時間の計画を立てた。「見通し」「学び合い」「振り返り」の場をしっかりと見据えるとともに、児童の思考や表現をイメージできるよう、1単位時間を見開き2ページで使用することを基本形とした児童のノートを使用し、1単位時間の指導計画を作成した。

(2) 「見通し」や「振り返り」を大切にした指導

・児童に学習の「見通し」をもたせる場面では、「結果の見通し」と「方法の見通し」の2通りの見通しをもたせた。また、前時までに学習したことが使えるように、教室の側面に算数コーナーを設置した。さらに、考えたことや思考の過程が残るようノートの使い方の例を示し、全校で統一した。児童はノートを見返して学びの履歴を探り、「見通し」や「振り返り」を行うことができた。

(3) 「説明を取り入れた学び合い」の充実を図るためのTTの活用

・話し合いの場面では、2人の教師が役割分担を考え、ねらいに迫るために児童の思考を揺さぶる「発問」を行った。児童は「本当にこの考えでよいのか」「他にどんな考えができるのか」と自分の考えを見直し、確かめることができた。TTの活用により、自力解決の場面では児童の思考の様子を効率よく把握することができ、話し合いの場面、他者説明を行う場面で意図的指名を行うことで児童の思考が深まった。

2 校種、学年、教科を超えた、共同研究体制による小・中連携の充実

(1) 共同研究体制による指導の充実

・小・中相互の授業研究会への参加、中学校教諭の小学校指導案検討会への参加、合同の諸調査の検討会等を行い、小・中が連携しながら研究を進めてきた。

(2) 学習を支える基本的な学習習慣・学習規律づくり

・基本的な学習習慣を、小学校では「浜っ子の学び」（資料5）、中学校では「学習の心得」として連携を図り、9年間を見通した指導の徹底を図ってきた。

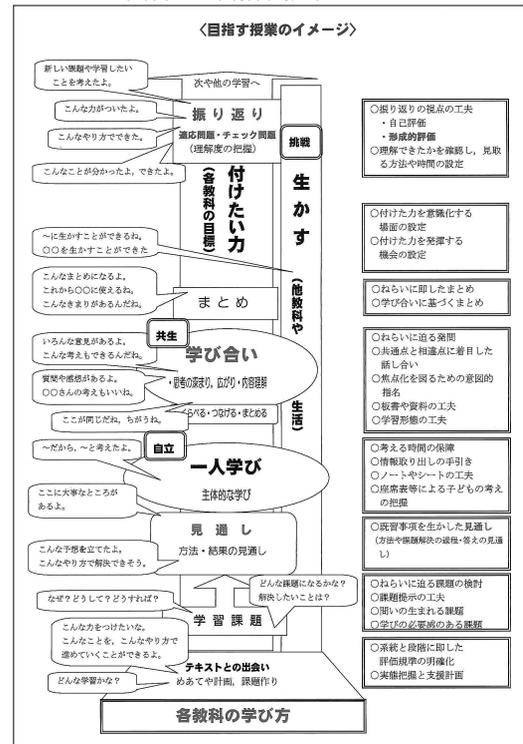
(3) 「中学生に学ぶ夏休み学習会」の実施

・中学校の協力を得て、夏休み中に中学校3年生を先生として、小学校5・6年生対象の学習会を行った。ほぼマンツーマンに近い指導で、児童の学習の弱点補強に役立った。



「中学生に学ぶ夏休み学習会」

資料4 目指す授業のイメージ



資料5 「浜っ子の学び」

金浦小学校

浜っ子の学び

1 学習前

- ① チャイムと同時に学習が始められるように席に立っています。
- ② ノートを開いて、目付や線をひいておきましょう。
- ③ 鉛筆・けしごむ・赤青ペン、じょうぎなどを準備しましょう。
- ④ 時間があったら、教科書を読んでいます。

2 学習の前触のあいさつ

- ① 大きな声で返事やあいさつをしましょう。
- ② あいさつが終わってから、次の行動につります。

3 指 差

- ① 手をあげるときは、ひじを両よりも上にあげましょう。
- ② 指名されたら、大きな声で「はい」と返事をして、すぐに立ちましょう。
- ③ 聞いているみんなに聞こえる声の大きさを話しましょう。最後まで、しっかり話しましょう。

4 話を聞く

- ① 話している人に向いて、自分も考えをもって聞きましょう。

5 書くとき

- ① 正しいえんぴつの持ち方で書きましょう。
- ② ていねいな、見やすい字（こさ・大きさ）で書きましょう。
- ③ ノートの書き方を身に付けて書きましょう。

6 グループ学習、ペア学習

- ① グループやペアの中で聞こえる声で話しましょう。
- ② 自分の考えと他の人の考えをくらべながら、聞きましょう。
- ③ 時間内に話ができるようにしましょう。

7 実験や実習（理科・体育・家庭・図工・音楽など）

- ① ひどまかせにせず、自分から進んで取り組みましょう。
- ② 目的や課題を理解して、安全に取り組みましょう。

8 学習後

- ① 学習が終わったら、次の学習の準備をしてから休みましょう。

研究主題

分かる，できる，楽しいと実感できる授業の実践
 ～「つなぐ」を意識した学び合いを生かす授業の追究～

大仙市立西仙北中学校 校長 佐藤 心一

I 研究の重点

- (1) 校種，学年，教科を超えた共同研究体制による小・中連携の充実
- (2) 全国学力・学習状況調査や県学習状況調査等の結果を踏まえた，学校体制でのP D C Aサイクルの確立

II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

- ・言語事項についての定着が十分でない。また，語彙力が不足している。
- ・数学的に考える力が十分でない。
- ・自分の考えを分かりやすく表現し，伝える力が十分でない。

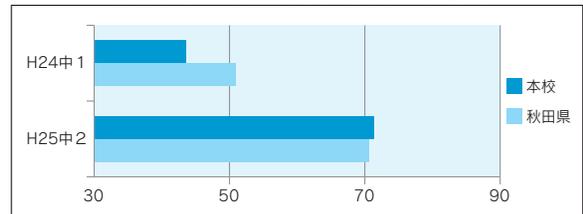
そこで，お互いに聴き合い，共に思考を深める「学び合い」を取り入れた授業実践を中心に研究を進めた。

2 成果

(1) 言語事項の定着

昨年度及び今年度の県学習状況調査国語における言語事項に関わる設問の平均を県平均と比較した結果，昨年度の1年生は-7.3だったのに対し，今年度の2年生は+0.7となった。(資料1)

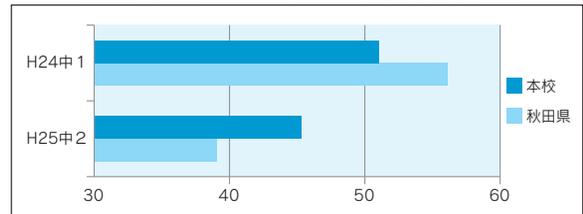
(資料1) 言語事項の設問の平均点



(2) 数学的な思考力・表現力の向上

(1)と同様に数学における数学的な考え方に關わる設問について比較した結果，昨年度の本校の1年生は，県平均に対し-5.2だったのに対し，今年度の2年生は+6.2と大幅な改善が見られた。(資料2)

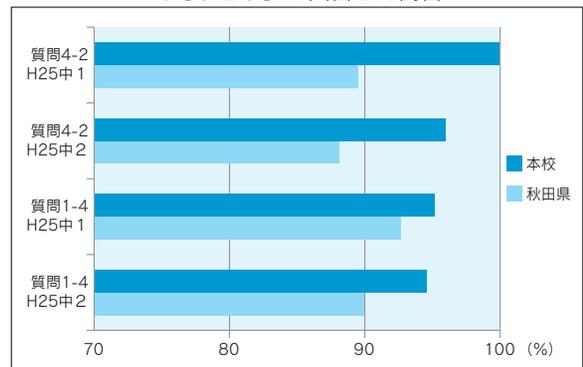
(資料2) 数学的な考え方の設問の平均点



(3) 学習意欲の向上

今年度の県学習状況調査の生徒質問紙において特徴的な傾向が見られたものとして，質問事項4-2「普段の授業では，学校の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」と回答した生徒が全県に比べてかなり多く，特に1年生は100%であった。

(資料3) 生徒質問紙において「つよく そう思う」「そう思う」と回答した割合



また，質問事項1-4「ふだんの生活や社会に出て役立つよう，勉強したい」と回答した生徒も県平均を上回っており，学び合いによる学習スタイルが学習意欲の向上につながったと捉えている。(資料3)

また，公開研究会に参加した県内外の先生方からは次のような肯定的な感想をいただいた。

公開研究会 参加者の声

- ・学び合いのグループ学習を充実させることで，意欲的に学習に取り組む子どもたちの姿が素晴らしいと感じました。
- ・子どもたちが授業開始から終了まで集中して，かつ意欲的に取り組んでいました。
- ・「分かる」「できる」授業の中で「なるほど」「そうだったのか」という思いがあふれる，根拠のある発言や説明ができるなど，なぜ学力が身に付くのか，ヒントをいただいたように感じました。
- ・「分からない」と言える関係ができていることは，「学び合い」の大きな成果だと思いました。

Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 小・中連携研究協議会「にしせんプロジェクト」における共同研究

昨年度に引き続き、西仙北小学校との連携を柱に両校の教職員が四つの班（授業研究、表現力育成、家庭学習、キャリア教育）に所属して研究を推進した。昨年度は、両校が「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」の指定を受け、算数・数学において小・中共同研究を進めてきた。

今年度は、本校だけが本指定を受けたが、その研究を他の教科にも波及させることをねらいとして、引き続き小・中が連携して全教科で研究に取り組んだ。

(1) 四つの班での共同研究の推進

合同研修会（4月）→各校の取組→合同研修（10月）→各校の取組→まとめ

昨年度の実践を踏まえた各班の今年度の研究内容

授業研究班	学び合いの追究、授業における「書くこと」について、「めあて」と「まとめ」の整合性、課題設定など
表現力育成班	各教科における言語活動の充実と表現力の育成、基本話型、読解力との関連、話す場の設定など
家庭学習班	家庭学習の手引きの作成、内容の指導（教科・学年）など
キャリア教育班	9年間のキャリア教育の全体計画、キャリア発達に関わる活動計画の整備、キャリア意識の醸成など

(2) 小・中連携による公開研究会の実施

「学び合いによる確かな学力の育成～小・中連携と授業デザインの工夫～」をテーマに、国語、算数・数学、図画工作・美術の三教科の授業を公開しての研究会を行った。

また、公開研究会の実施に伴い、両校の全教職員が国語、算数・数学、図画工作・美術の教科班に所属し、授業研究会では各教科とも全国各地から参加した160名の参会者ととともに7～8名のグループに分かれて協議を行った。



3年数学の授業



1年美術の授業

授業デザインの留意点

- ① 課題解決型の授業を提示する
- ② 「学び合い」に耐えうる課題提示と教材開発を行う。
作業的活動を伴う課題を心がける。
- ③ 「分からない」ときに友達に「分からないから教えて」と言える人間関係をつくる。
- ④ 4人（男女2名ずつ）1グループを形成し、座席の配置は市松模様の男女構成とする。平素はコの字型形態。
- ⑤ 友達の話す内容を聴き合うことが基本である。
- ⑥ 生徒と生徒、生徒と教材（モノ）、教材（モノ）と自分（教師）をつなぐ。

2 学校体制でのPDCAサイクル



	月	教 職 員	生 徒	保護者・地域等
P	4	・課題把握・推進計画 ・「にしせんプロジェクト」推進体制の確立		・推進計画の広報 (学校報・HP)
D	5 6	・課題解決に向けた取組 「学び合い」を核とした全員研修 ・1人年1回の研究授業		
C	7 8	・全国学力・学習状況調査の結果分析 ・指導改善計画の再構築	・生徒アンケート	・保護者による評価 ・評価結果の発信
A	9 10 11	・改善に向けた取組 ・指導主事等による指導 ・公開研究会の開催		・取組状況の発信 (学校報・学年報・HP)
C	12	・秋田県学習状況調査の結果分析		
A	1	・教師による評価	・生徒アンケート	・保護者による評価
A	2	・課題改善に向けた取組 (フォローアップシートの活用)	・生徒による評価	・成果と課題、改善に向けた取組を発信
C	3	・評価・次年度の計画		

研究主題

分かった、できた、楽しいと自ら学び続ける子どもの育成

～考えを伝え、共に高め合う授業づくりを通して～

羽後町立三輪小学校 校長 土田 尚子

I 研究の重点

- (1) R-PDCAサイクルを確立し、主体的な学びを創るための授業改善を行うこと
- (2) 小・中連携による学力向上のための共同研究体制を効果的に機能させ、地域、家庭との連携のもと学力の向上に努めること

II 自校の課題と取組による成果

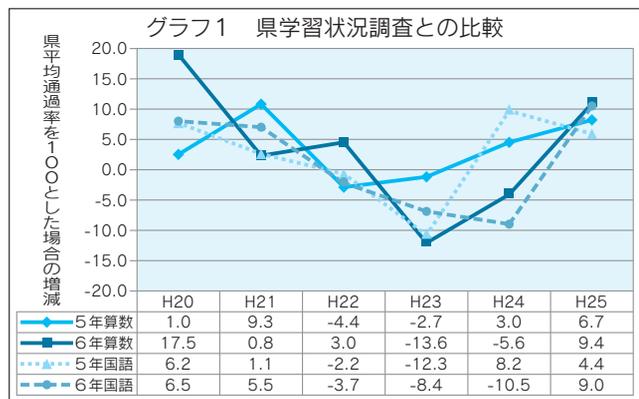
1 自校の課題

- ・目的に応じて文章を読み取ったり、制限内で題意に沿って答えたりする力が不足している。
- ・国語や読書に対する関心や必要感が低く、話すこと・書くことへの意欲や自信も低い。
- ・教師がそれぞれの授業スタイルから抜けきれず、児童が互いに学び合い、高め合うような主体的な学びを育む意識が薄い。
- ・中学校が隣接されているが交流がほとんどなく、9年間を見通した学習習慣の確立や学力向上の取組について共同研究体制が十分とは言えない。

2 成果

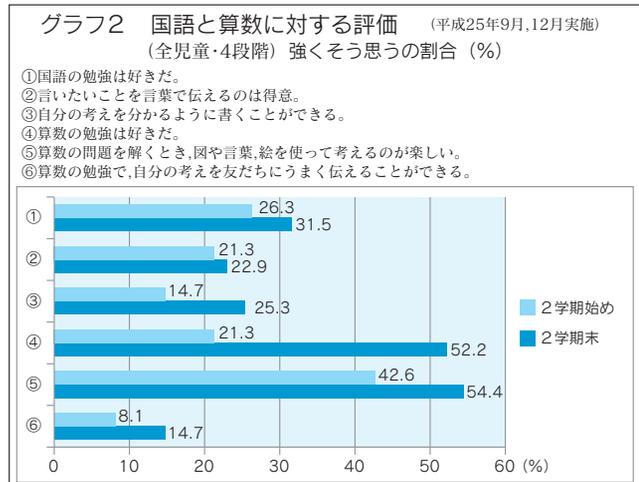
(1) 言語事項の定着

県学習状況調査で県平均を上回った重点教科とした国語・算数について、5・6年生の結果を県平均通過率と6年間にわたり比較した。昨年度から少しずつ改善し始め、今年度は、5・6年生のいずれの教科においても県平均通過率を上回ることができた。(グラフ1)



(2) 自校の課題に係る子どもたちの学習に対する意欲や力が高まった

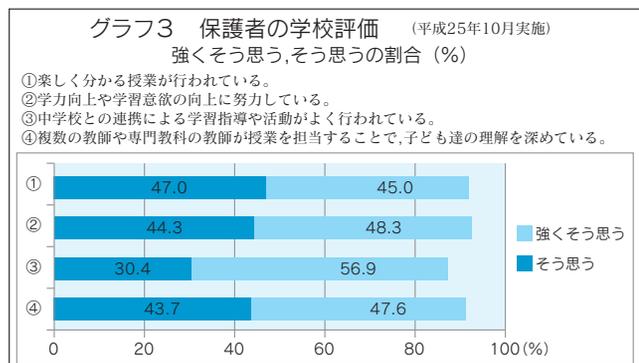
全校的に国語に対する意欲の低さが課題だったが、「国語が好き」という子どもが大きく増加した。グラフにある「強くそう思う」(31.5%)とグラフにはないが「そう思う」(47.5%)を合わせると79%となった。また、自分の考えを表現することへの意欲や自信の高まりも表れている。算数についても、学習意欲の向上とともに、思考力を伴う学習に積極的に参加している結果が数字に表れていると考えられる。(グラフ2)



(3) 昨年よりも保護者の評価が高まった

学校評価の中で本研究に関わる項目を拾った。いずれの項目も90%以上が肯定的評価をしており、「楽しく分かる授業」が行われているという高い評価を得ることができたと受け止めている。

日々の学習活動や家庭学習に取り組む子どもの姿やPTA・学校報等での情報提供から、保護者の学校教育への理解が進んでいると考えられる。(グラフ3)



(4) 教師の授業改善が進み、子どもの高まりを実感している

本校の教員からは、「下位の子どものやる気や基礎学力が高まった。」「上位の子どもは自分の考えを伝える力が高まった。」「話したり書いたりするとき、構成を工夫したり、引用や要約を用いたりすることができるようになってきた。」「文章の大事な部分やキーワードを見付ける力が高まった。」という声が出された。

Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 共同研究体制の推進と共通実践事項の共有化

(1) 重点単元の設定と授業研究体制の見直し

本校の課題の分析から、国語科では「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域、算数科では「思考力」を伸ばすことを目指し、内容的には「単位量あたりの大きさ」を重点単元として取り組むことを確認した。具体的には、3年・5年・6年の校内授業研究会をそれらの単元で実施し、他学年でも関連する内容・単元に重点的に取り組んだ。授業研究は、事前検討や具体的な授業の準備・細案検討、研究協議の役割分担等を上学年部・下学年部として実施した。特に、指導案の事前検討は、次のように大きく3段階とした。



6年「学級討論会をしよう」授業風景

- ① 4～3週間前…どのような力を育てるためにどのように実施していくか、構想の話合い
- ② 2週間前…1回目の話合いを基に書いた指導案を具体的に検討
- ③ 授業実施まで…授業の詳細の検討、教材準備

さらに、研究協議は2つの視点を定めるとともに付箋紙法を用いたグループ協議を取り入れ、視点に沿った話合いやそのまとめを積み重ねてきた。

結果として、授業研究に主体的に取り組む機会が増え、研究の方向性や共通実践事項を実践を通して確かめることができ、全体的な授業力の向上につながった。

(2) 算数科「三輪小学びのスタイル」の共有

右のような『算数はかせ』になろう!」や自分の考えを説明するときの「話し方・使いたい言葉」を全学級前面に掲示し、1単位時間を基本的にこの流れで実施するようにした。また、この学びのスタイルに沿ったノート指導の基本を示し、共通実践してきた。

算数 三輪小学びのスタイル

「算数はかせ」になろう!

- 1 問題を読もう**
 - 大事なところに線を引いたり、○でかこんだりしよう。
 - 何を聞いているのかな? 大事な言葉はどれだろう? 今までのところどこは、どこだろう?
- 2 課題やめあてをつくろう**
 - 今日のゴールはこれだ。がんばろう!
- 3 見通しを立てよう**
 - 今までの学習を思い出そう!
 - どんな方法で考えればいい? ○○を使えばできそう。 答えは、このくらい?
- 4 自分の力で解こう**
 - 【線や図を使って】
 - そのものの線や○、□をかいて
 - 線分図や数直線、関係図などをかいて
 - 矢印や線、言葉もつけてわかりやすく
 - 【言葉で説明】
 - 順序を入れて、わかりやすく(まず、次に、それに、だから、番号で・・・)
 - 理由をつけて(～だから、～なので、そのわけは、・・・)
 - 【式】
 - 簡単な数字でためてみる
 - 言葉の式にしてみる
 - 友だちに説明するとき役立つように。 自分で、後で見てわかるようにかこう。
- 5 話し合おう**
 - ペアやグループ⇒全体
 - なぜそうなるんだろう。 自分とくらべると・・・
 - さんの考えとにているな。
 - 「はかせ」の考え方にするには・・・
 - は やくて か んたんで せ いかくにかける方法
- 6 まとめよう**
 - 自分の言葉でまとめてみよう!
- 7 やってみよう**
 - 今日は、～がわかった。
 - ～さんの方法を、今度は～してみたい。
 - 今日の勉強は、～ことに役立つ。
- 8 ふり返ろう**

算数科「三輪小学びのスタイル」

2 基礎学力向上の取組

(1) パワーアップタイムの計画的実施

朝8時15分からの15分間を利用し、火曜日「計算」、木曜日「読解」の問題を、校内放送を利用して全校体制で実施した。基礎学力向上を目指し、読解で最初の5分間は読むことに専念し、その際、大事なところに線を引きながら読みを深める活動を重視してきた。

また、月曜日の放課後には7年部参加での個別指導を重視したパワーアップタイムを実施してきた。

(2) 読書活動の推進

学年推薦図書(学年20冊)を示し、がんばりカードを作成した。5校時前に、読書タイムを設定し、学年相応の物語を集中して読む時間とした。

3 小・中連携での取組

(1) 9年間を見通した段階表の作成と配付

小・中の教員が「学習指導部」「家庭学習指導部」「生徒指導部」に分かれ、それぞれで連携して取り組むことを話し合った。

特に「9年間を見通して」ということでは、上のような「学習習慣表」や「家庭学習の手引き」「生活習慣表」を作成し、家庭にも周知を図り協力を求めた。

(2) 教師間・児童生徒間交流

教師間交流は「気軽に見合うところから」ということで、週に2、3名ずつが普段の授業を見に行く期間をもった。その際、簡単に感想を伝えたり、小学校の授業では、中学校の先生から子どもたちに中学校の学習との関連等について話をしてもらった。

また、校内授業研究会では、その教科の中学校教員に指導案検討会から参加してもらい、重点単元の5年「単位量あたりの大きさ」では、中学校の数学の教員がT3として指導に当たった。さらに、秋田大学の阿部昇先生や教育専門監の指導もいただきながら、授業公開を行った。

児童生徒間交流としては、地域クリーンアップを小・中合同の縦割りグループで実施した。

平成25年度

三輪っ子 めざす学びの姿

三輪小・中学校 学習指導部会 (一部抜粋)

	小1・2年	小3・4年	小5・6年, 中1年	中2・3年
家での準備	<input type="checkbox"/> うちのひとといっしょに、じかんわりをしらべ、べんきょうどうぐをよういする。 <input type="checkbox"/> うちのひとにたしかめてもらって、しゆくだいやせんせいにだすものを、きめられたひまでにだす。	<input type="checkbox"/> 時間割や通信などをもとに自分で持ち物を準備する。 <input type="checkbox"/> 通信などをもとに、宿題や提出するものを期限までに忘れずに提出する。	<input type="checkbox"/> 時間割やメモ等をもとに、必要な学習用具を準備する。 <input type="checkbox"/> 宿題や提出物は、期限を守って提出する。 <input type="checkbox"/> 見直しをもって、計画的に家庭学習に取り組む。	

小・中で連携して作成した「学習習慣表」



<学校改善支援プランと併せて活用してください>

秋田県検証改善委員会では、平成19年度から毎年「学校改善支援プラン」を発行しています。その中で、学力向上に係る特色ある取組を紹介していますので、本実践事例集と併せて活用してください。

なお、「学校改善支援プラン」は、「美の国あきたネット (<http://www.pref.akita.lg.jp/>) >子育て・教育>学校教育>小・中学校」及び「学力向上支援Web」からダウンロードすることができます。